

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 益田清風高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月 9日(木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 益田清風高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会 長	森本 翔太郎	馬瀬建設株式会社 専務取締役
委 員	皆越 眞佐代	NPO飛騨小坂200滝代表者
	向野 優子	NPOみらいろ理事長
	河合 正博	下呂市観光商工部長
	朽本 達治	朽本農園 (欠席)
	山下 久美子	下呂看護専門学校長
	滝 景子	水明館 若女将
	長尾 伴文	ぎふ夢教育応援隊
	前田 芳隆	前小坂中学校長
	今井 富樹	育友会長 (欠席)
学 校 側	佐藤 尚史	校長
	塚本 和幸	教頭
	井田 誠	教務主任
	打保 圭史	生徒指導主事
	上田 界堂	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 意見交流(地元中学生の進路選択について)

意見1: 教員が教室の後方に立って生徒が前で発表するなど、講義形式ではない授業が行われており、生徒の前向きな姿を見ることができた。中学生は立地を理由に志望校を決める場合があるので、入学者が少ないのは学校だけの問題とは言えない。下呂地区の中学生は駅伝と野球で高い実績を上げているが、あまり入学していない。少人数授業の良さや、地元イベントでの活躍を、もっとアピールしてほしい。

意見2: 生徒と教員が対話をしながら授業をしていた。少人数で課題に取り組む姿を、中学生に見せる機会があるとよい。

意見3: 教室や体育館の履物がきれいに並んでいた。ICTを活用した授業の様子を中学生に見せて、自主的に益田清風を選んでもらいたい。

意見4: 少人数で教員との対話が多く、授業に楽しく参加していた。専門学校においても、小規模で細やかな指導をしてもらえることを理由に入学する生徒が多い。スマートフォン

ンを預かると、休み時間に不安になる生徒もいるのではないかと。いじめアンケートを頻繁に実施して、細やかに現状を把握できている。

意見5：地域のイベントで生徒に助けてもらっている。高校生が来ると活気が出る。下呂市の情報が新聞に載ることが少ない。卒業すると学校に来る機会がないので、学校を開放して市民に知ってもらおうと、入学につながるのではないかと。プロジェクターの画面と板書を併用した授業は、見ていて分かりやすかった。

意見6：学校を決めるのは中学生自身である。たくさん知ってもらえるほど、行きたい学校になる。探究活動の発表を中学生に見てもらおうなど、高校の楽しさを分かってもらえる機会があるとよい。

意見7：授業を受ける生徒の目が生き生きとしていた。プレスリリースを生徒にやらせると、広報の仕方を学ぶ機会になるのではないかと。各地の寺子屋事業で中学生が小学生に教えているように、高校生が中学生に教える場があるとよい。社会人になるとプレゼンテーションの能力が重要になるので、生徒のプレゼンテーション機会を増やすとよい。学校でスマートフォンを預かってもらえるのはありがたい。授業でタブレット端末を使って、さらに休み時間にスマートフォンを見ていたら、目が大丈夫なのか心配である。

意見8：外部の人も生徒自身も、益田清風を良い学校だと思っている。当社ではインナーブランディングに力を入れることによって、若い社員が集まるようになった。高校生が地元中学生に学校の良さを発信してつながれば、入学者も増えていく。大宮市は英語教育を充実させたことで、住みたい街ランキングの上位に入った。保護者は教育を重要視している。

意見9：中学生は16時30分に下校するので、その後の時間を利用して交流できないか。
⇒高校生の部活動や学習の時間も確保しなければならず、調整が必要であるが、検討したい。

意見10：部活動で高校生が中学校に行き行って教えることは可能か。
⇒実際に交流している部活動はある。

意見11：就職希望者が減少したのはなぜか。
⇒ビジネス情報科3年次生の生徒数が、昨年よりも少ないことが大きな要因である。

6 会議のまとめ

下呂市内から入学する割合が低い現状について、どのように捉えているか伺ったところ、高校の良さをもっと中学生に伝えれば入学者は増えるとの意見で一致した。学校に求められているニーズに応えられるよう、いただいた意見を学校運営に役立てていきたい。